平成２２年１２月１０日

会報

熊本県日中協会

通刊78号

平成22年
12月発行

～さらなる友好の絆を～

《発行》
熊本県日中協会
会長　柏木　明

<事務局>
〒860-0846 熊本市城東町ムー2
熊本ホテルキャッスル2F

Tel 096-356-4847
Fax 096 325 2829

荒尾で『孫文・宮崎滔天』展

辛亥革命百周年直前企画

11/19・20日
総合文化センター

日中友好の架け橋「孫文と宮崎滔天・絵画資料展」が十一月二十、二十一日の二日間、荒尾総合文化センターで開かれ、県日中協会からも柏木明会長らが出席、オープニング・セレモニーに華を添えました。

辛亥革命百周年を来年に控え、絵画で孫文の功績と宮崎滔天との友情を顧みようと、荒尾市日中友好促進会議、上海市人民対外友好協会、上海市孫中山宋慶齢文物管理委員会が企画・主催。

会場には孫文の生涯と功績を物語風に説明した、上海孫中山故居紀念館所蔵の絵画六十点と荒尾市宮崎兄弟資料館所蔵の歴史資料を特別展示。中国同盟会成立(一九〇五)絵画は当時の模様がリアルに描かれ、一九一三年に孫文が荒尾の宮崎家を訪れた際、滔天や家族、関係者ら数十人と写った記念写真は二人の親交の深さを物語っていました。

開会式には上海や神戸市の孫文記念館からも駆けつけ、柏木会長らと共に、テープに鋏を入れました。また、大ホールでは記念講演もあり、同展を盛り上げました。

県日中協会からも式典参列

展覧会のテープカットをする招待者ら。左端は柏木明会長

宮崎兄弟資料館の安田信彦館長の説明を聞く参列者

本協会でも事業計画

辛亥革命百周年に合わせて、県日中協会でも平成二十三年、宮崎滔天と孫文を中心にした企画事業を検討しています。

荒尾市や宮崎兄弟資料館などからの協力を仰ぎながら、放映、講演会、資料展示、ゆかりの地探訪などを考えています。

辛亥革命とは

一九一一年十月十日、長江中流の都市武昌の兵士たちの蜂起を狼煙として、中国各地に清朝に反対する運動が広がり、一九一二年に孫文が南京で臨時大総統への就任と共和制を宣言して中華民国を建国、清朝二六〇余年の支配と秦漢以来二千年にわたった皇帝専制の歴史に終止符を打った。

「辛亥」は一九一一年の干支。

荒尾市出身の宮崎滔天は、孫文らを支援して辛亥革命を支え、孫文に終世の友と言わしめた。滔天の死後、孫文主催の「宮崎滔天追悼大会」が上海で開催され、中国革命に対する絶大な功労者との賛辞が送られた。

上海から借用した絵画
孫文と黄興が握手する
左手には滔天の姿も

ご参加お待ちしています

熊本春節祝賀会

2月16日(水)
午後6時半
ホテルキャッスル
会費：1万円

「リハビリ」で医療交流

熊本機能病院と広西壮族自治区の病院

第一回中国広西―日本熊本国際リハビリテーション学術フォーラムが十月九日から三日間、広西壮族自治区の南寧で開かれ、熊本機能病院（理事長・米満弘之当会常任理事）の中西亮二副院長ら四名が参加した。

このフォーラムは、熊本大学大学院の生命科学研究部環境保健医学分野准教授で、同病院に勤務したことのある魏長年先生が企画、ＪＩＣＡの支援で実現。

学術フォーラム開幕式

フォーラムでは中西副院長が「日本におけるリハビリテーション医療の現状と今後の展望について」、中島雪彦作業療法士・三宮克彦理学療法士・井上理恵子言語聴覚士の三名が「リハビリ医療における各職種の役割について」それぞれ講演、中国側の講演や一般演題も行われた。

また、一行は同自治区江濱病院六十周年祝典にも参加、これを機に熊本機能病院と江濱病院が協力してリハビリ医療を進めるとの趣旨から、「中国広西―日本熊本中日友好リハビリテーション訓練センター」が設立され、除幕式も行われた。

訓練センターの設立 除幕も

熊本機能病院は十五年前から中国との医療交流活動を続けており、参加者は「中国の方々の熱意に触れ、志に感動、沢山の刺激を受けてきた」と話している。

江濱病院六十周年式典でスピーチする中西副院長（右）

訓練センター除幕式後記念撮影する関係者

自然が織りなす 九寨溝 童話の世界

世界遺産の旅

四川省の省都・成都から北へ四百キロ。森林伐採中に作業員が発見、十八年前にユネスコの世界遺産に登録されました。

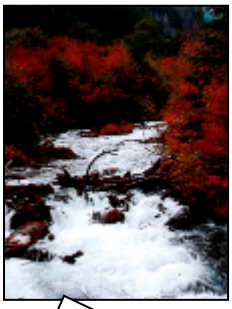
幅広い諾日郎滝

樹正溝など三つの溝からなり、長さは五十キロ。途中には滝や紺碧の池、激流などがあり、十ヵ所の雪峰も。

湖は透きとおり、湖底に生える水生植物が揺れながら光り輝いている。湖面に木々の緑が映り、朝と晩、四季の変化で湖水は紺碧、オレンジなどに変化する。神秘なまでの鮮やかさは自然が織り成す「童話の世界」と称されています。

同時に世界遺産に登録された黄龍も四川省で、九寨溝の近くにあります。

（随時掲載）


秋の九寨溝

九寨溝滝

（株）近代経営研究所 & Kinkei-Farm

人と自然・文化・社会の調和

【本社】〒861-8066 熊本市清水亀井町16番11号
TEL (096) 345-6000 FAX (096) 344-7799
URL http://www.kinkei-net.jp
（ファーム事業所）阿蘇・玉名・福岡・沖縄・東京・NY

ボランティア・NPO・文化地域活動支援 社会活動放送局 http://www.11-92.net

多彩に国際交流

10月24日 熊本交通センター

祭典に県日中協会も出展

「第十七回熊本国際交流祭典」が十月二十四日(日)、熊本交通センターコートで開かれ、県日中協会からも出展、参加者との交流を深めました。(熊本県国際協会主催)

当協会の参加は今年で四回目。グルメ部門に出展し、中国菓子の麻花(マァホア)とワンタンスープ、それに中国茶を販売。あいにくの雨にもかかわらず麻花は完売しました。

ステージでは各国の踊りや歌などが披露され、会場内ではパネル展示、バザー、世界のグルメコーナーが設けられ、訪れた人たちでにぎわっていました。

あたたかいジャスミン茶、いかがですか～

販売した麻花とワンタンスープ。おいしいですよ

南寧へ県の訪中団

アセアン博に「ブース」出展

熊本県広西壮族自治区訪問団(団長・蒲島郁夫県知事以下四十八名)が、十月十七日から二十一日まで、熊本県と友好提携している広西壮族自治区の区都・南寧を訪れた。

広西壮族自治区は中国の最南端に位置し、中国におけるアセアンの窓口で、中国政府が進める西部大開発の重要拠点。

南寧市では、二十日から第七回中国-アセアン博覧会が開催され、熊本県もブースを出展。また、同博覧会に合わせて開発が始まった、中国-アセアン国際ビジネスエリアに「日本園」がオープンし、そこにも「広西・くまもとプラザ」を開設、県の観光や物産の情報発信の場となっている。

訪中団は、「広西・熊本プラザ」の開幕式への参加、アセアン博覧会場の視察、広西壮族自治区の経済関係部局や地元企業との意見交換会、政府関係者への表敬訪問などを行った。

↑アセアン博覧会場

日本園の熊本プラザ↓

日本園入り口

ステージで表演された太極拳

国旗をフェイスペインティング

民族衣装俺、似合うッスか？

熊本県レクリエーション協会

会長　永　野　光　哉

〒861-8046 熊本市石原2丁目9-1 TEL 096-380-6662 FAX 096-380-6686

中国帰国者を支えて
中対協の活動から

熊本県中国残留孤児等対策協議会（会長三浦一水・略称中対協）では、日本に永住帰国した中国残留邦人やその家族を支援するため、様々な活動を行っています。

中対協の主な活動として、帰国者の皆さんが医療機関や行政機関を利用する際に同行する通訳の派遣、日常生活の諸問題に対応する相談員の派遣、就職活動の支援、受講料無料の日本語教室の開催などがあります。

また、帰国者の高齢化への対応として、高齢帰国者向け日本語教室「和睦会」を毎週木曜日に開催しています。

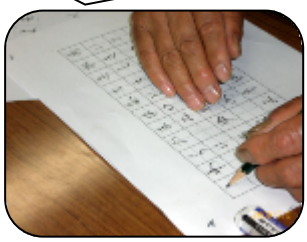
和睦会は通常の語学教室とは違い、帰国者の皆さんが気軽に足を運び、この和睦会を通じて人々と出会い、ともに学ぶ楽しさを実感できるようになることを目指しています。文化活動や運動、日本語学習などを楽しく行いながら、体験や喜びを共有し、周囲の人とのつながりの中で、自分の役割や生きがいを見出してもらうための集いの場です。

具体的には、料理教室、太極拳、ダンス、絵手紙、書写、音楽、手芸など。年に二回ほど交流会も開催しています。

熊本県日中協会は、熊本県中国残留孤児等対策協議会から事務委託を受けており、同協議会の業務を通じて、中国帰国者の支援活動を行っています。

海苔巻きおいしそう

福岡の水族館でイルカとアシカのショーを見学


ひらがなの練習

手芸で、細かな作業を習う参加者

日本語の歌の練習
しーらかばぁ～
あおぞーら～♪

社交ダンス
皆楽しそう

太極拳で
健康に！

スタッフボランティア及び講師　募集中！

和睦会に参加し、帰国者の皆さんと活動、運営を手伝うスタッフボランティアと和睦会の講師を募集しています。

詳細は、熊本県日中協会事務局（〇九六-三五六-四八四七）までお問い合わせください。

中国のことわざ　四字熟語

ディー　スゥイ　チュアン　シー
滴水穿石
継続は力なり

水が少しずつ滴るうちに固い石に穴が開くことからの例え

編集後記

今年は上海万博への派遣事業企画が成功し、実りのある年でした。更に当協会が日中友好活動を充実させていくためには、会員挙げた多大な協力が不可欠です。

それには会員同士を繋げる絆が必要であり、当機関紙はその母体となるべく、情報を会員の皆さんにいかにして伝達していくか、ふんばっています。

多くの情報を拾い、掲載していくか、今後の課題は山積しています。小さなことで結構です。中国に関係したニュースをお待ちしています。

（機関紙編集委員会　小串　照彦）